

教科名	国語科	校 種	中学校
-----	-----	-----	-----

科 目 の 配 当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など，授業の形態
1 年	国語	必	4	5時間のうち1時間を書写に配当
	書写	必	1	
2 年	国語	必	4	5時間のうち1時間を書写に配当
	書写	必	1	
3 年	国語	必	5	

科目名(教科名)		国語 (国語科)			
担当教員		長谷 智美			
学年	1	単位数	4	必修・選択・展開	必修

■ 授 業 の 目 的

1. 思考力・読解力を養い、「言葉」の持つ力を交流のツールとしながら仲間とともに成長する自分を実感する。
2. 様々な作品に触れることで、語彙力を養うと共に、言葉・芸術・社会・自然についての認識を広げる。
3. 時代を超えて語りかけてくるものを感じ取り、伝統文化・日本語の美しさを大切にすることを学ぶ。

■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	導入 詩 単元1 家族の中で 小説・随想の読解 単元2 命の鎖 説明文・評論の読解 作文・読書感想文コンクールに 向けての取り組み	・様々な文学のジャンルを知る ・小説や随想に描かれた登場人物の心理をとらえる ・家族のつながりやあり方を考え、自分の変化を見つめる ・展開や表現に即して、作品のテーマやモチーフをとらえる ・文章の構成をとらえ、筆者の主張を要約し、理解する ・文章の様々な表現技法を学ぶ ・原稿用紙の使い方 ・字数制限に合わせ思いをまとめ、表現を膨らませる経験をする
	弁論大会に向けての取り組み 単元3 出会いと発見 詩や小説、随想・説明文の読解 単元4 時を超えて 古文の文章読解と故事成語 漢字能力検定への取り組み	・弁論大会に向けて、生活作文・主張文を書く ・主題をおさえて作品を楽しむ姿勢を育てる ・要旨を的確にとらえ、筆者の体験や気持ちに共感しながら読む ・教科書以外の演習問題に多く取り組むことで基本的国語力を養う ・音読と暗誦により、古文を味わい読解方法を学ぶ ・古文の特徴を知り、歴史的仮名遣いの表記に慣れる ・故事成語や四字熟語を習得する ・それぞれの取得級の目標に向かい合格点に達するよう学習する
3 学 期	単元5 関係の中で 小説と随想の読解 漢字能力検定に向けての取り組み 「母の日作文」に向けての取り組み	・文学作品を鑑賞し、様々な価値観や人生を追体験する ・教科書以外の演習問題に多く取り組むことで基本的国語力を養う ・上代から近世までの文学史を学習する ・近代から現代までの有名作品群を知り、教養を身に付ける ・それぞれの取得級の目標に向かい合格点に達するよう学習する ※生徒の実態に応じて内容、進度に変更されることがある
通 年	漢字語句・語彙の学習 文法の学習 模試対策演習	・言葉の単位・文の成分・品詞分類について学ぶ ・単語の性質や働きを知り、品詞の区別を学ぶ ・体言の特徴・用言の活用の種類について学ぶ ・様々な文章を読解演習する

評価の 観点	【関心・意欲・態度】	国語で伝えあう力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、国語を尊重しようとする。
	【話す・聞く能力】	目的や場面に応じ、適切に話したり聞いたり話しあったりして、自分の考えを豊かにしている。
	【書く能力】	相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて文章を書いて、自分の考えを豊かにしている。
	【読む能力】	目的や意図に応じ、さまざまな文章を読んだり読書に親しんだりして、自分の考えを豊かにしている。
	【知識・理解・技能】	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて速く書いている。
評価の 方法と 割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 70% 平常点 20% 書写 10%	
教科書・ 副教材等	● 教科書 : 「中学校国語」(学校図書) ● 問題集 : 「iワーク」(育進社) 「新文法ノート」(浜島書店) ● 副教材 : 「新国語の便覧」(正進社)	

科目名（教科名）	書写（ 国語科 ）				
担 当 教 員	大林 千鶴				
学年	1	単位数	1	必修・選択・展開	必 修

■ 授 業 の 目 的

1. 字形を整え、文字の大きさ、配列・配置などに気をつけて書くこと。
2. 漢字の楷書とそれらに調和した仮名を注意して書くこと。
3. 漢字の行書の基礎な書き方を理解して書くこと。

■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	○はじめに ○楷書で書こう ○硬筆	・筆記具の歩みを知る ・毛筆書写の姿勢・執筆法 ・文房四宝とその扱いについて ・文字の筆使い・筆順・字形・配列など整えて書く ・楷書の基本的な点画に留意して書く 始筆・送筆・終筆 ・暑中見舞い状 ・全国硬筆作品展覧会出品
2 学 期	○楷書と仮名を調和させて書こう ○創作 ○書き初め ○実用書	・いろは歌 ・学院祭書道展の作品づくり ・全国書きぞめ作品展覧会出品 ・年賀状と季節の挨拶状
3 学 期	○行書で書いてみよう ○目的や必要に応じて書こう	・行書と楷書の違いを知る ・行書の基本的な筆法を習得する 丸み・連続・方向・形の変化 ・硬筆練習帳
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	さまざまな角度から文字に対する関心を深め、文字を書くことへの興味や関心を深めることができるか。
	【書く能力】	楷書の基本点画や、行書の基本筆法、ひらがなの筆づかいを理解して字形に注意して書くことができるか。
	【読む能力】	小説家や詩人が書いてきた文字や、遺されてきた文献を読んで、書かれた文字や内容について理解し、興味を持つことができたか。
	【知識・理解・技能】	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について理解し、場面に応じた工夫した書き方をすることができたか。
評価の 方法と 割合	● 評価方法 ： 作品制作点と平常点（硬筆練習帳など）により、成績を算出する。 ● 割合 ： 作品制作点 80％・平常点 20％ 国語の成績の中に、書写の成績を含んで、学期毎に算出する。	
教科書・ 副教材等	● 教科書 ： 中学書写（教育出版） ● 副教材 ： 中学書写準拠 硬筆練習帳（教育出版）	

科目名（教科名）		国語（国語科）			
担当教員		堤 久人			
学年	2	単位数	4	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 思考力・読解力を養い、「言葉」の持つ力を交流のツールとしながら仲間とともに成長する自分を実感する。
2. 様々な作品に触れることで、語彙力を養うと共に、言葉・芸術・社会・自然についての認識を広げる。
3. 時代を超えて語りかけてくるものを感じ取り、伝統文化・日本語の美しさを大切にすることを学ぶ。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	導入 詩 単元1 家族の中で 小説・随想の読解 単元2 命の鎖 説明文・評論の読解 作文・読書感想文コンクールに 向けての取り組み	・様々な文学のジャンルを知る ・小説や随想に描かれた登場人物の心理をとらえる ・家族のつながりやあり方を考え、自分の変化を見つめる ・展開や表現に即して、作品のテーマやモチーフをとらえる ・文章の構成をとらえ、筆者の主張を要約し、理解する ・文章の様々な表現技法を学ぶ ・原稿用紙の使い方 ・字数制限に合わせ思いをまとめ、表現を膨らませる経験をする
	弁論大会に向けての取り組み 単元3 出会いと発見 詩や小説、随想・説明文の読解 単元4 時を超えて 古文の文章読解と故事成語 漢字能力検定への取り組み	・弁論大会に向けて、生活作文・主張文を書く ・主題をおさえて作品を楽しむ姿勢を育てる ・要旨を的確にとらえ、筆者の体験や気持ちに共感しながら読む ・教科書以外の演習問題に多く取り組むことで基本的国語力を養う ・音読と暗誦により、古文を味わい読解方法を学ぶ ・古文の特徴を知り、歴史的仮名遣いの表記に慣れる ・故事成語や四字熟語を習得する ・それぞれの取得級の目標に向かい合格点に達するよう学習する
3 学 期	単元5 関係の中で 小説と随想の読解 漢字能力検定に向けての取り組み 「母の日作文」に向けての取り組み	・文学作品を鑑賞し、様々な価値観や人生を追体験する ・教科書以外の演習問題に多く取り組むことで基本的国語力を養う ・上代から近世までの文学史を学習する ・近代から現代までの有名作品群を知り、教養を身に付ける ・それぞれの取得級の目標に向かい合格点に達するよう学習する ※生徒の実態に応じて内容、進度に変更されることがある
通 年	漢字語句・語彙の学習 文法の学習 模試対策演習	・言葉の単位・文の成分・品詞分類について学ぶ ・単語の性質や働きを知り、品詞の区別を学ぶ ・体言の特徴・用言の活用の種類について学ぶ ・様々な文章を読解演習する

評価の 観点	【関心・意欲・態度】	国語で伝えあう力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、国語を尊重しようとする。
	【話す・聞く能力】	目的や場面に応じ、適切に話したり聞いたり話しあったりして、自分の考えを豊かにしている。
	【書く能力】	相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて文章を書いて、自分の考えを豊かにしている。
	【読む能力】	目的や意図に応じ、さまざまな文章を読んだり読書に親しんだりして、自分の考えを豊かにしている。
	【知識・理解・技能】	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて速く書いている。
評価の 方法と 割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 70% 平常点 20% 書写 10%	
教科書・ 副教材等	● 教科書 : 「中学校国語」 (学校図書) ● 問題集 : 「i ワーク」 (育進社) 「新文法ノート」 (浜島書店) ● 副教材 : 「新国語の便覧」 (正進社)	

科目名（教科名）		書写（国語科）			
担当教員		大林 千鶴			
学年	2	単位数	1	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 字形、文字の大きさ・配列・配置などに配慮し、目的や必要に応じて調和よく書くこと。
2. 漢字の楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解して書くとともに、読みやすく速く書くこと。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学期	○楷書の特徴 ○行書の特徴 ○創作 ○硬筆 ○実用書		・ 楷書と行書の違いを知る ・ 学院祭書道展の作品づくり ・ 全国硬筆作品展覧会出品 ・ 暑中見舞い状
2 学期	○楷書を深める ○行書を深める ○仮名 ○書き初め ○実用書		・ 中国の古典作品の筆使い・字形・配列を学ぶ ・ 行書にあう仮名、連綿 ・ 全国書きぞめ作品展覧会出品 ・ 年賀状と季節の挨拶状
3 学期	○漢字と仮名の調和 ○創作 ○硬筆		・ 仮名の表現 ・ 平仮名…いろは歌のもとになった漢字 ・ 短歌、俳句を書く ・ 中学校書写の集大成としての作品づくり ・ 硬筆練習帳仕上げ
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	漢字の古典作品や日本のかな文字に対する関心を深め、文字を書くことへの興味や関心を深めることができているか。	
	【書く能力】	楷書の基本点画や、行書の基本筆法、ひらがなの筆づかいを十分理解したうえで、個性を生かした作品を完成させることができたか。	
	【読む能力】	さまざまな文字や、遺されてきた文献を読んで、書かれた文字や内容について理解し、興味を持つことができたか。	
	【知識・理解・技能】	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について理解し、場面に応じた工夫した書き方をすることができたか。	
評価の 方法と 割合	● 評価方法 ： 作品制作点と平常点（硬筆練習帳など）により、成績を算出する。 ● 割合 ： 作品制作点８０％・平常点２０％ ● 国語の成績の中に、書写の成績を含んで、学期毎に算出する。		
教科書・ 副教材等	● 教科書 ： 中学書写（教育出版） ● 副教材 ： 中学書写準拠 硬筆練習帳（教育出版）		

科目名（教科名）		国語（国語科）			
担当教員		山根 登代			
学年	3	単位数	5	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 語彙力を豊かにし、文章構成と適切な文章で正しく表現する力を養う。
2. 様々な作品を通して思考力・読解力を養いながら、視野を広げ自己の価値観を構築していく。
3. 古典の学習に必要な事項を学び、高等学校での学習の準備をする。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	導入 詩 単元1 社会の中で 小説・随想の読解 単元2 命の共鳴 小説・俳句の読解 作文・読書感想文コンクール に向けての取り組み	・情景を想像しながら音読し、語感を磨く ・コミュニケーションのあり方について考え、表現の大切さを知る ・自分にとっての言葉を見直し、自覚的な言葉の使い手となる ・俳句の文学的価値を学び、風景や心情を読み取る
2 学 期	弁論大会に向けての取り組み 単元3 未来への問い 説明文・評論の読解 単元4 今に向かって 和歌と漢詩・紀行文 漢字能力検定への取り組み	・筆者の主張を文章の構成に沿って要約する ・筆者の体験や気持ちに共感しながら心理の変化をとらえる ・説明文や評論の構成方法を学び要旨を的確にとらえる ・言葉の続き方に注意し、歌を繰り返し音読する ・どんな情景、人間関係を詠んでいるか読み解く ・繰り返し音読暗誦することで漢詩の調子に慣れる ・近世の紀行文の代表作に触れ、伝統文化との接点を確認する ・それぞれの取得級の目標に向かい合格点に達するよう学習する
3 学 期	単元5 世代を超えて 小説と随想 中学校の総復習	・登場人物の生きた時代背景を考えながら文学作品を鑑賞する ・近代の中国史と作者の生き方を見つめる ・文学史の総復習 ・学力診断テストに向け、中学校の総復習をする ※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある
通 年	漢字語句・語彙の学習 文法の学習 模試対策演習 古典の学習	・付属語の種類とその用法について学ぶ ・助詞の文法上の性質を学び、正しく使い分ける力を養う ・付属語、敬語の基礎知識を確認する ・様々な文章を読解演習する ・百人一首等の文学的価値を知り、味わう力を養う ・古典の基礎知識について学ぶ

評価の観点	【関心・意欲・態度】	国語で伝えあう力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、国語を尊重しようとする。
	【話す・聞く能力】	目的や場面に応じ、適切に話したり聞いたり話しあったりして、自分の考えを豊かにしている。
	【書く能力】	相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて文章を書いて、自分の考えを豊かにしている。
	【読む能力】	目的や意図に応じ、さまざまな文章を読んだり読書に親しんだりして、自分の考えを豊かにしている。
	【知識・理解・技能】	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて速く書いている。
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験70% 平常点30% 3学期は平常点30%に学力診断テスト10%を含む	
教科書・副教材等	● 教科書 : 「中学校国語」(学校図書) ● 問題集 : 「iワーク」(育進社) 「新文法ノート」(浜島書店) ● 副教材 : 「新国語の便覧」(正進社)	